

第5回は、仮営業所の時代（1961～1964年）です。

⑤仮営業所

- 営業所を急増の木造建築から本格的な建築に建て直すべきと考えられていた頃、東海銀行（当時）が、本店を新築（現三菱東京UFJ銀行名古屋本部）したため、空いた同行旧本店営業部の建物（旧愛知銀行本店、場所は現御幸ビルの所在地）を建替完了までの期間賃借して、1961（昭和36）年から営業を開始しました。

— 仮営業所移転後、直ぐに木造の菅原町営業所取り壊し工事が始まり1961年には完了、直ちに新営業所建築を開始する予定でした。しかし、日本銀行の金融引締め政策への転換に伴い、新営業所建築等の設備投資は率先自粛となり、着工は1963年に延期されました。



仮営業所（1961～1964年）
・・・東海銀行（現三菱東京UFJ銀行）本店旧店舗を賃借

当時の名古屋は・・・

日本最大幅の100メートル道路で中央分離帯に緑地公園をもつ久屋大通の完成（1963年）、東海道新幹線の開業（1964年）など、交通網の充実が進んでいきます。人口は、193万人（1965年）と着実に増加し、東京都区部を除けば大阪市に次ぐ規模を維持します。

当時の東海経済は・・・

産業面では、機械のウエイトが最大となり、中でも自動車等の輸送用機械が牽引するようになり、中京地帯は京浜・阪神と並ぶ工業地帯として日本の「モノづくり」を支えています。

<産業別工業生産額シェア（1963年、東海3県）> %

食料品	繊維	化学	金属	機械	輸送用	その他
(9)	(25)	(15)	(11)	(30)	(15)	(10)

窯業(6)

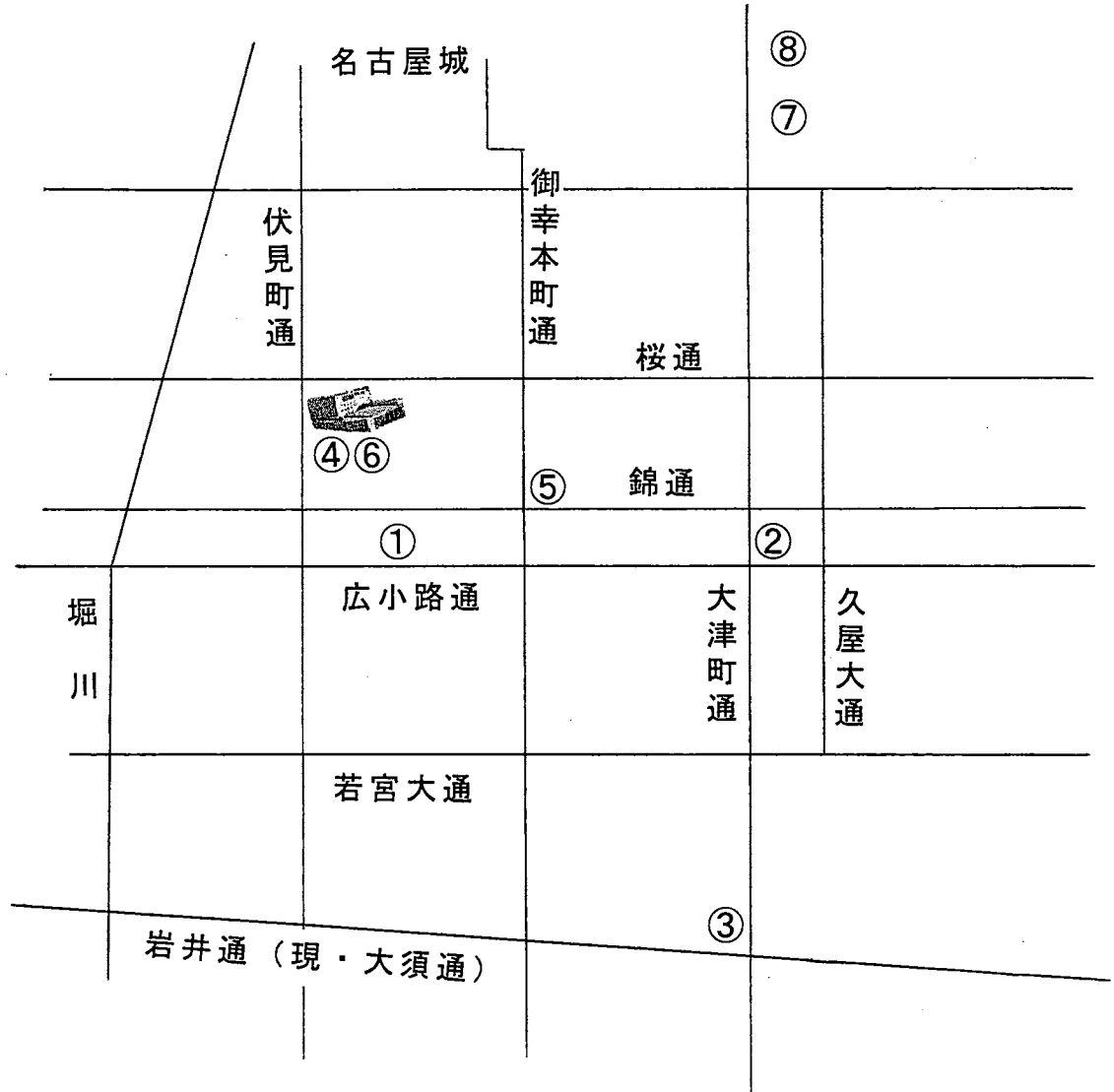
当時の支店長は・・・

第32代三宅重光支店長（義父は井上準之助第9・11代総裁）は、前の菅原町営業所で着任しましたが、1月余り後には仮営業所に移り、新営業所の工事が漸く始まった頃に離任したため、自らを「仮店舗の番人」と称していました。後年、仮店舗を賃貸した東海銀行の頭取に就任した後、JR東海（東海旅客鉄道）初代会長、第20代名古屋商工会議所会頭を歴任しました。

<仮営業所時代の支店長>

代次	氏名	就任年月	代次	氏名	就任年月
32	三宅 重光	1961.5	33	色部 義明	1963.3

- 愛知県図書館所蔵の 1963 (昭和 38) 年当時の地図をもとに位置関係のイメージをみると、以下のようになります。



- ① 日本銀行名古屋支店・初代新柳町営業所
- ② " ・ 2代栄町営業所
- ③ " ・ 3代仮営業所 (帝国銀行上前津支店を賃借)
- ④ " ・ 4代菅原町営業所
- ⑤ " ・ 5代仮営業所 (東海銀行旧本店営業部を賃借)
- ⑥ " ・ 6代現営業所 (建築中)
- ⑦ 愛知県庁
- ⑧ 名古屋市役所